

信州高遠星空観察会①

令和5年12月15日(金)～16日(土)

【対象】 星空観察に興味のある家族・グループ

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

各種望遠鏡を使って、高地特有のきれいな星空を観察したり、流れ星(「ふたご座流星群」の活動が活発に行われる時期である)を見たりすることで、宇宙や自然への興味関心を高める。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和5年12月15日(金)～12月16日(土)

(2)参加者 宿泊：7グループ 26名(大人：10名、小学生：14名、小学生未満：2名)

日帰り：2グループ 7名(大人：3名、小学生4名)

※ 日帰りは23名参加予定だったが、16名は当日キャンセル

(3)日 程

	18	19	20	21	22	23
12/15 (金)	雨天だったため 雨天プロを実施	受付	開会挨拶 ＜指導員による星の話＞ プラネタリウムを使った宇宙の話 天体望遠鏡について	宿泊棟移動 希望者のみ ふたご座流星群ライブ カメラ動画鑑賞	入浴 入浴後就寝	

※ 日帰りをご希望の方は21:00以降、各自で帰宅(21時過ぎの活動に参加可能)。

12/15 (金)	【参考】晴天時の実施計画	受付	開会挨拶	天体の説明・観察 300mm天体望遠鏡による観察	宿泊棟移動	入浴	就寝	
						野外で寝転んで流星観察(希望者)	入浴	就寝

	6	7	8	9	10	11
12/16 (土)	起床 身支度 清掃	朝のつと	朝食	清掃 荷物整理	退所点検	星座早見盤づくり
						開会挨拶

3. 企画運営のポイント

- ・ふたご座流星群の極大期の日程に合わせ事業を実施することで、流れ星の観察ができるように設定した。
- ・星空観察の事業では、曇りや雨の場合には星空が観察できないため、参加者が当日キャンセルしてもキャンセル料金がからない「日帰り参加」の枠も準備した。
- ・専門的な知識や300mm反射望遠鏡を扱う技能をもっている指導員に講師を依頼し、星空の観察を行うことで、肉眼や双眼鏡などでは見ることが難しい星の様子を観察したり、参加者の夜空に関する見識を深めたりすることをねらう。

4. 参加者アンケートより

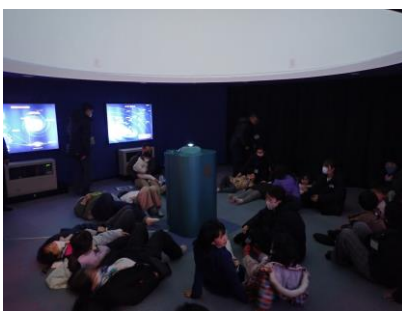
- ・プラネタリウムや望遠鏡を見ることが出来て雨でも楽しめました。
- ・雨が降ってとても残念でした。
- ・外で星は見れなかったけれど、プラネタリウムなどはとてもわかりやすく楽しかった。
- ・とてもたくさんの知識が身につきました。
- ・雨で外での活動ができず残念でしたが、先生方のお話も聞いてうれしかったです。
- ・星空をまた観察してみたいくなりました。知らないことも知れて空を見るとまたちがってきますね。
- ・(クラフト体験) みんな集中して自分だけのオリジナルができ、楽しそうでした。

5. 事業中の様子

天体望遠鏡の説明



プラネタリウムを使った星空についての説明



クラフト（星座早見盤づくり）



全体写真

6. 成果と課題

(1) アンケート結果 回収9グループ（回収率100%）

事業全体を通して	満足：7グループ	78%
	やや満足：2グループ	12%
	やや不満：0	0%
	不満：0	0%

(2) 成果と課題

- 今回はふたご座流星群の日と事業日を合わせようとしたこともあり、金曜日の夜開始となるため、参加申し込みが少ないのではないかと不安があったが、実際は、宿泊申し込み40グループ、日帰り申し込み47グループ、合計の申し込み人数279名と予想を上回る申し込みがあった。星空観察のような事業では、金曜日の夜開始の土曜日の午前解散の事業でも需要があるということが分かった。
- 星空観察がメインの事業のため、天気の悪い際に当日キャンセルしてもキャンセル代が発生しないよう、日帰りの参加ができるように計画を立てた。今回は実際、雨天だったこともあり、日帰りの参加者で当日のキャンセルが多くあった。参加者の希望に添った事業という点では、このような形の事業を実施できたことも成果であった。
- 今回、宿泊希望で申し込んだ家族から、「信州高遠青少年自然の家にもともと興味があったが利用できずにいたところ、今回のような手軽な事業があったので申し込んだ」という話を聞いた。家族での研修支援事業での施設利用は二の足を踏むが、教育事業であれば参加したいというニーズがあること、教育事業には研修支援事業での施設利用のきっかけとしての役割があるということに気づくことができた。
- 星空観察の日帰りの参加をできるようにしたためか、抽選に落ちたメールを送ったにもかかわらず、事業当日に来所しグループがいくつかあった。今後、原因究明を続け、対策を検討する必要がある。